

メリハリをつけるために、問題行動を分類する。

<p>強制力が必要 &lt; ----- &gt; ゆるやかな対応</p>	<p>緊急性のある事 &lt; ----- &gt; 後回しで良い事</p>
<p>他害・妨害・自傷、一般法に抵触する行為 →対応:叱ること。 ただし、トラブルのないときに褒める事。</p>	<p>合法だけど、校則違反とか違反持込み→預かるだけ、 本人が何か言ってきたら対応する</p>
<p>気になる常同行動。 ・音を立てるとかなら、注意する。 ・音を立てない分にはどうでもいいい。</p>	<p>目業自得だし、そのうち気が付くよなこと。どうでも良 いこと。授業中の姿勢とか。 対応:あえて無視、やっけない時に「今日はやってな いよね」と声掛け。</p>
<p>小3なつても指をなめたり、年齢相応でない行動 対応:「嫌だな」とかっ気持ち伝わる事。「みんなが 嫌がるから手を洗ってくる」など伝える。 ちんちん触ってる→対応:叱っても直らないなら、ドン 引きすとか。</p>	<p>目業自得だし、そのうち気が付くよなこと。どうでも良 いこと。授業中の姿勢とか。 対応:あえて無視、やっけない時に「今日はやってな いよね」と声掛け。</p>

## 問題行動の分類（表の使用目的）

何から何まで叱ると、支援者の精神力も尽きるし、子どもにも何が最もいけないのか伝わらない。

動機づけの原則に沿った対応を心がけることは大切かと思えます。

- ・ 叱るには、鶴の一声的な怖さ、短時間での切り上げ等が必要。
- ・ 内容と関係なく関わった時間が長いと負の強化をしている場合がある。
- ・ 良いときには笑顔で話し込む等。差が解るようにする。

表(別添付)を使って、保護者と確認が必要。叱り方も決めておく。場合によっては、本人も含めて話合うことも必要。

通りがかりの先生も同じ対応ができる様に情報の共有。

なお、日常の生活態度が良いときに（+）評価することほど困難なことはありません。問題行動がなければ何事も起こらないので、見過ごしてしまいます。そのためには問題がないことを意識化するために○付け表を使ったりします。